

2025年9月5日
ピジョン株式会社

【9/5 は国際チャリティー・デー】

「日本橋 母乳バンク」が開設 5 周年を迎え、支援者が集まりチャリティイベントを実施
～ピジョンによる母乳バンク意識調査発表・母乳バンクに対するパパの認知向上が課題～

ピジョン株式会社（本社：東京、社長：矢野 亮）は、一般社団法人 日本母乳バンク協会（代表理事：水野 克己、以下、日本母乳バンク協会）と共同で「日本橋 母乳バンク」（運営：日本母乳バンク協会）の開設 5 周年を記念し、これまでの支援者を招待したチャリティイベントを 2025 年 9 月 4 日（木）に当社本社にて開催しました。

【チャリティイベントの主要トピック】

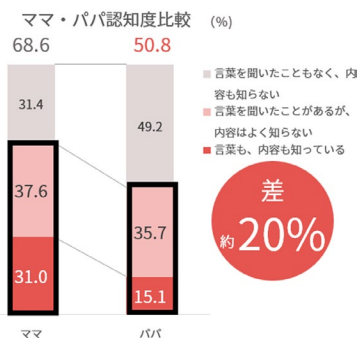
- 日本母乳バンク協会 代表理事 水野克己先生より、「日本橋 母乳バンク」5 周年を迎えられた喜びの気持ちやこれまでの歩みと感謝を述べられました。また、安定的な運営のため継続的な寄付等による支援の重要性を訴えられました。
- ドナーミルクを利用されたママより、ドナーミルク利用時のお気持ちやドナーへの感謝、「ドナーミルクが当たり前の世の中になって欲しい」と普及への期待を述べられました。
- ピジョン 代表取締役社長 矢野が登壇し、スポンサー企業として支援継続を表明。また、担当者より子育て層における母乳バンクの認知度調査結果が発表され、5 年間での認知度の変化や、母乳バンクに対するパパの認知向上の必要性、安全性への理解不足に関して報告しました。
- 学校内の探究活動の一環として、母乳バンクの啓発活動を行っている福井南高校の生徒 5 名が登壇。直近の学校内、地域や関係機関への啓発活動や活動を通じての気づきを説明されました。また、今後のさらなる意欲的な挑戦を発表しました。
- 本イベントを記念して、バイオリン奏者岡部氏による生演奏の披露があり、参加者からは感動の声があがりました。



母乳バンクに関する意識調査 抜粋

- 開設から 5 年が経ちプレママ・ママの認知度は、49.5%から 67.0%へ大幅に向上。それに伴い抵抗感も 60.7%から 47.1%と減少しました。
- 一方で、ママは 68.6%が認知しているのに対し、パパは 50.8%と約 20%ほど認知に差があります。（右図参照）
- 認知者の中にも、安全性・衛生面には、一定程度不安の声があがることから、今後は安全性も併せてより深い理解を伝える必要性が示唆されました。

Q:母乳バンクを知ってますか？



Celebrate babies the way they are

【開設 5 周年！母乳バンクチャリティイベント】

■ 講演「日本橋 母乳バンク設立 5 周年を迎え、これまでの感謝と継続的な支援の重要性」

一般社団法人 日本母乳バンク協会 代表理事／小児科医 水野 克己先生



水野先生より、これまでの歩みを「奇跡の連続。そうやって今日この日を迎えられた」と振り返りました。また、関わってくださるすべての方へ感謝の気持ちを述べられました。その後、日本における母乳バンク・ドナーミルクの安全性について、ドナーへの厳しい基準や低温殺菌処理前後の培養検査、20 年間の追跡調査等に関するご説明があり、「ぜひ安心して使ってほしい」と訴えました。

最後に、「これからも安定して沢山の赤ちゃんに安心安全のドナーミルクを提供できるよう、引き続き支援をお願いしたい」と参加された支援者へ呼びかけました。

■ ドナーミルクを利用されたご家族のお話

ドナーミルク利用ご家族 内西 奈津美さん（22 週 3 日 497g でのご出産）



ドナーミルクを実際に利用されたママである、内西 奈津美さんが登壇し、ドナーミルクを使用するまでの経緯やドナーの方への感謝、「ドナーミルクを通じて沢山の人の支えてもらっている実感を得た」とお話がありました。息子さんへは、写真を見せながら当時の経験を話していることも明かしました。また、今後望む未来としては、「ドナーミルクを使用できた状況を奇跡で終わらせず、多くの方にドナーミルクを知ってもらうことで、当たり前の世の中になって欲しい」とお話されました。

■ 高校生による講演「私たちの探究活動～今までとこれから～」

福井南高校 夏目ゼミ



母乳バンクの啓発活動を行っている福井南高校の生徒 5 名が登壇。学校内にとどまらず、地域や関係機関へと活動を広げている中で、直近で最も注力した『ふくい高校生県議会』での提言についてご説明されました。また、幅広い活動と生徒ならではの視点で、年齢や言語にあわせた内容・伝え方の工夫が必要と発表されました。最後に、「啓発の先にある“当たり前の”ドナーミルクになって欲しい」と今後のさらなる活動に向けた力強い想いをお話されました。

■ ピジョン 代表取締役社長挨拶、担当者による子育て層における意識調査発表

ピジョン株式会社



ピジョン代表取締役社長 矢野より、お祝いの言葉とともに支援の継続を表明しました。また、ピジョンより意識調査結果を発表し、開設から 5 年に伴い認知度の大幅な向上や抵抗感の低減について、また今後のさらなる啓発のためにパパの認知向上や安全性周知の重要性を述べました。

■ イベントの様子



【母乳バンク意識調査】

<調査概要>

調査対象者：プレママ・プレパパ（現在妊娠されている母親、現在妊娠されている配偶者がいる父親/20～49 歳） 516 名

ママ・パパ（現在 3 歳未満の赤ちゃんを持つ母親、父親/20～49 歳） 516 名 合計 1,032 名

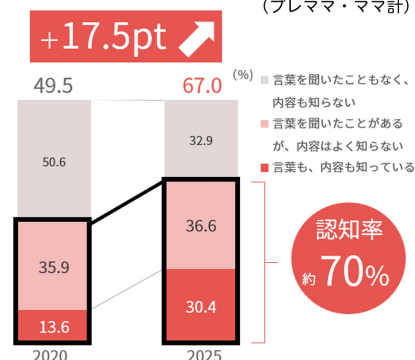
実施期間：2025 年 6 月 26 日～6 月 27 日 調査主体：ビジョン株式会社 調査方法：インターネット調査 調査会社：株式会社マクロミル

1. プレママ・ママの認知度は約 70%、5 年で大幅向上

母乳バンクについて、「言葉も内容も知っている」「言葉を聞いたことがある」と回答した割合は 2020 年は約 50%、2025 年は約 70%になり、5 年間で大幅に認知が向上しています。

Q:母乳バンクを知っていますか？

(プレママ・ママ計)



2. プレママ・ママのドナーミルク利用への抵抗感は 5 年で大幅減少

ドナーミルク利用について、「かなり抵抗を感じる」「やや抵抗を感じる」と回答した割合は 2020 年は約 60%、2025 年は 50%以下になり、5 年間で大幅に抵抗感が減少しています。

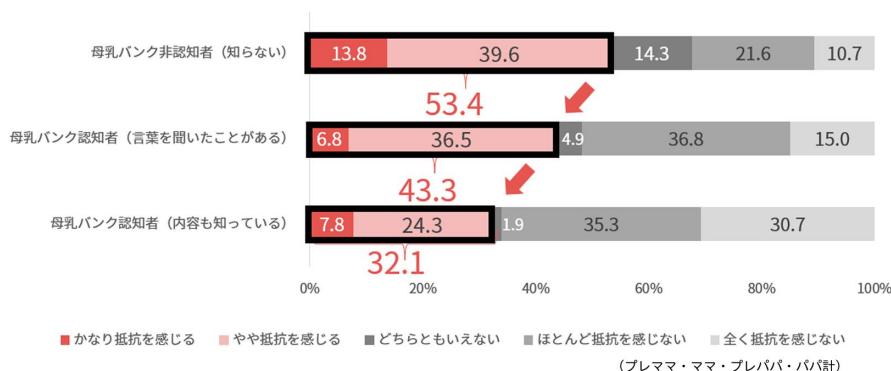
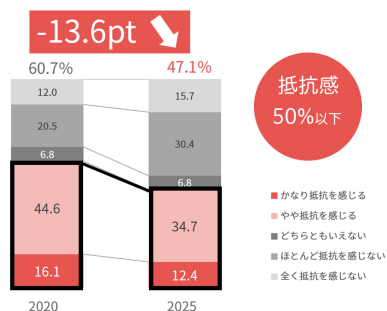
その要因としては、認知度の向上が関係していると考えられます。実際に 2025 年の調査結果でも母乳バンク非認知者は約 50%が「利用に抵抗を感じる」と答えたのに対し、母乳バンク認知者「言葉を聞いたことがある」と回答した方で抵抗を感じると回答した方は約 40%、「内容も知っている」と回答した方で抵抗を感じると回答した方は約 30%でした。認知や理解が深まるにつれ、抵抗を感じる割合が減少しています。

Q:もしご自身の赤ちゃんが1,500g未満で生まれ

医師からドナーミルクが必要と判断され

利用することになった場合、

あなたはどのように思いますか？ (プレママ・ママ)

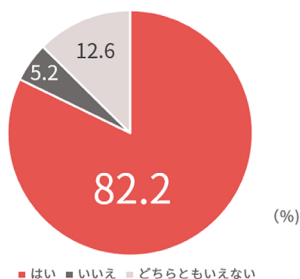


3. パパの認知度向上の必要性

「母乳バンクについて、父親も知っておいた方が良いと思うか？」の質問に対しては約 80%が「はい」と回答しました。一方で実際のパパの認知度をみると約 50%であり、ママの認知度と比較しても約 20%ほど認知度に差があります。実際にドナーミルクを利用する際には、家族で話し合って決断をする必要があり、またママの体調等によってはパパのみがドナーミルクの利用を決断した事例もあります。パパも母乳バンクを知っておくことが重要と言えます。

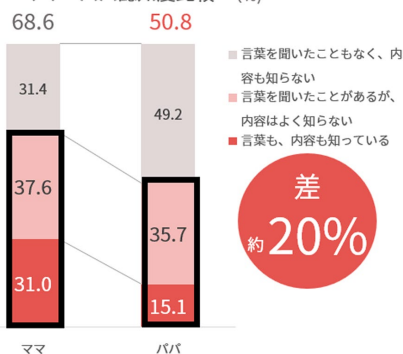
Q:母乳バンクについて、母親だけではなく、父親も知っておいた方が良いと思いますか？

(ママ・パパ計)



Q:母乳バンクを知っていますか？

ママ・パパ認知度比較 (%)



4. 母乳バンク認知者の中にも、安全性・衛生面への不安の声あり

母乳バンク認知者（言葉を聞いたことがある・言葉も、内容も知っている）に母乳バンクのイメージを尋ねた質問では、「NICU にいる赤ちゃんに利用する」や「母乳が沢山出て余っている時に冷凍保存して、母乳が足りなくて困っているお母さんや赤ちゃんに分けてあげられる」など母乳バンクの活動をよく認知・理解している一方で「まだ（母乳バンクは）知名度も低く乳児が口にするものと考えて安全性について考える（プレパパ）」、「衛生面などが心配。（ママ）」、「困っている方にしてみたら助かるが、感染リスクの可能性や、ドナー母乳の入手が難しい場合があるなどのデメリットがある（ママ）」等、衛生や感染リスクなどの安全性への不安の声がありました。

日本の母乳バンクは、寄付された母乳を低温殺菌処理し、安全なドナーミルクを提供しており、また厳しい衛生基準に則り運用されています。今後は認知拡大に加え、安全性や衛生面の周知の重要性が示唆されました。

ピジョン株式会社



ピジョンは、育児用品をはじめ、マタニティ用品・介護用品・保育サービスなどを手掛けるブランドです。60年以上に亘る研究に基づき、製品やサービスを提供することによって、この世界をもっと赤ちゃんにやさしい場所にしたいと考えています。ピジョンは、赤ちゃんが生まれながらに持つ素晴らしい力を育み、すべての赤ちゃんがありのままに輝ける世界の創造を目指していきます。

赤ちゃんにやさしい未来に向けた世界中に広がる私たちの取り組みを下記でご紹介しています。
<https://www.pigeon.co.jp/vision-of-a-baby-friendly-future/>

【参考資料1】

■「ちいさな産声サポートプロジェクト」とは

ピジョンは、早産で生まれた赤ちゃん、低体重で生まれた赤ちゃん、病気の治療が必要な赤ちゃんなど、専門的なケアを必要とする赤ちゃん一人ひとりの健やかな成長を支え、ご家族がより安心して幸せを実感できるように「ちいさな産声サポートプロジェクト」を各国で行っています。

このプロジェクトの取り組みとして、2020年9月の「日本橋 母乳バンク」の開設サポートをはじめ、社会への母乳バンクの普及啓発活動などの継続した支援を実施しております。

●特設サイト URL : <https://www.pigeon.co.jp/csr/tinycry/>



■ピジョンの具体的な支援について

ピジョンは2020年から日本母乳バンク協会のゴールドスポンサーとして支援を開始、同年9月には、当時国内2拠点目となる母乳バンク「日本橋 母乳バンク」（運営：日本母乳バンク協会）を、当社の全面サポートによりピジョン本社1階に開設しました。また、当社の独自の強みである、ママ・パパ、プレママ・プレパパとの接点を活かし、国内シェア8割以上の商品パッケージに母乳バンクの情報を記載した他、対象商品の売上の一部を同協会に寄付するキャンペーンを実施。さらに、社会への母乳バンクの普及およびドナーミルク利用の抵抗感を低減するため、普及啓発動画の作成や、情報Bookの無償提供などを行っています。



●主力商品に「母乳バンク紹介リーフレット」を同封



●ドナーが使用する母乳フリーザーパックの無償提供



●ドナーミルクを使用した赤ちゃんのご家族の座談会の開催



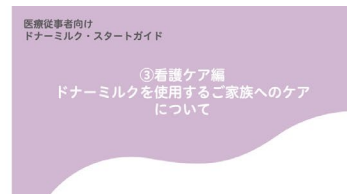
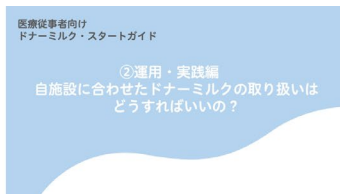
●「ドナーミルクご利用家族向け情報 Book」の制作
<https://www.pigeon.co.jp/csr/tinycry/about.html>



●母乳バンク紹介動画の制作

ロング ver. : <https://youtu.be/XMFCzYv3YrE>

ショート ver. : <https://youtu.be/CddEKL7Bhwk>



●医療従事者向けドナーミルクスタートガイド（動画）

ドナーミルクを導入する病院の医療従事者の方へ母乳バンク・ドナーミルクの情報をまとめた動画を制作

<https://www.pigeon.co.jp/csr/tinycry/hmb/medical/>

【参考資料 2】

■母乳バンクとは

母乳を必要とする早産・極低出生体重児（出生体重 1,500g 未満の赤ちゃん）が母親から母乳を得られない場合、医療機関からの要請に応じ、寄付された母乳を低温殺菌処理した「ドナーミルク」として提供する施設が「母乳バンク」です。

「母乳バンク」では、国際的な運用基準に基づき母乳の検査や低温殺菌処理を行い、安全に保管、保存することが求められます。

■母乳・ドナーミルクはなぜ必要なのか

母乳には、赤ちゃんにとって必要な栄養素がバランスよく、消化しやすい形で含まれており「最適な栄養食」と言われます。特に、様々な感染症、病気にかかるリスクが高い早産児において、母乳には赤ちゃんの生死にかかわる壊死性腸炎（腸の一部が壊死する病気）に罹患するリスクを、人工乳のおよそ 1/3 に低下させる効果があることがわかっており※3、「母乳は薬」とも言われています。また、早産児がかかりやすい未熟児網膜症や慢性肺疾患などの予防に役立つ物質が含まれているほか※4・5、長期的な神経発達予後を改善する効果についてのエビデンスも出てきています※6・7。しかし、全ての母親が、出産直後から十分な母乳が出るわけではなく、早産となった場合には、母親が必要量の母乳を与えられないこともあります。そのような際に、ドナーミルクを提供することで、上記のような疾患の罹患率と重症度を低下させ、長期的予後の改善を図ることができます。

※3 Quigley MA. Henderson G. Anthony MY. et al. Formula milk versus donor breast milk for feeding preterm or low birth weight infants. Cochrane Database Syst Rev. 2007; (4) : CD002971.

※4 Patel AL et al. Influence of own mother's milk on bronchopulmonary dysplasia and costs. Arch Dis Child Fetal Neonat Ed. 2017;102(3):F256-F261.

※5 Zhou J et al. Human milk feeding as a protective factor for retinopathy of prematurity: a meta-analysis. Pediatrics. 2015;136(6):e1576-1586.

※6 Lewandowski AJ et al. Breast milk consumption in preterm neonates and cardiac shape in adulthood. Pediatrics. 2016;138(1):pii:e20160050.

※7 Vohr BR et al. Beneficial effects of breast milk in the neonatal intensive care unit on the developmental outcome of extremely low birth weight infants at 18 months of age. Pediatrics. 2006;118(1):e115-123.

■世界の母乳バンクの現状と日本における母乳バンクの課題

2002 年に WHO（世界保健機構）より「母親の母乳が得られない場合は、ドナーミルクが第一選択である」と推奨されたことをきっかけに、今では世界 50 カ国以上で 600 カ所を超える母乳バンクが開設されています。

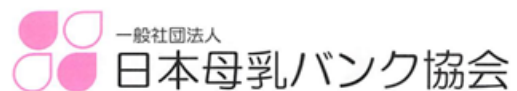
日本では、2017 年に一般社団法人 日本母乳バンク協会が設立され、2019 年当時日本に唯一の昭和大学江東豊洲病院内の母乳バンクでは、2018 年 9 月から 2019 年 8 月までの 1 年間に於いて 80 例に対応しました。しかし、日本において、ドナーミルクが必要な赤ちゃんは年間 5,000 人と想定されていたことから、当時は施設が圧倒的に不足している状況でした。また同年 7 月には、日本小児医療保健協議会栄養委員会から「自母乳が不足する場合や得られない場合、次の選択肢は認可された母乳バンクで低温殺菌されたドナーミルクである」との提言が出され、母乳バンクの普及が一層期待される状況でもありました。

そのような背景から、2020 年 9 月に「日本橋 母乳バンク」が開設され、その後 2022 年 4 月に「日本財団母乳バンク」が稼働を開始、2023 年には東京以外では初となる「藤田医科大学病院日本財団母乳バンク（ドナーミルクのストック拠点）」が開設されたことにより、供給面が圧倒的に不足している状況は解消しましたが、ドナーミルクの需要増が益々見込まれることから、今後も安定的な供給体制の整備が求められます。

■母乳バンク協会概要

日本母乳バンク協会は、日本の新生児医療において「母乳」の活用を促進することを主な目的として 2017 年 5 月に設立された一般社団法人です。本協会は「母乳提供者の善意」を基盤に、以下を主な内容として活動をされています。

- ・提供者の健康チェック
- ・提供母乳の各種検査（血液検査によるスクリーニング検査を含む）
- ・提供母乳の安全な保管、保存、その方法の開発
- ・低出生体重児への母乳の提供
- ・低出生体重児の母親への母乳育児支援
- ・周産期医療における効果的な「母乳活用」の研究



日本母乳バンク協会 URL: <https://jhmba.or.jp/>